

※ 解答は、《解答らん》に書きましょう。

小波さんたちは、次のAからCまでの昔話や説話を読みました。

### A 「天狗の涙石」

久万高原町に、しだれ桜で有名な法蓮寺という寺があります。その近くの田のあぜに、高さ五十センチ、はば三十センチの烏帽子に似た石が立っています。

地元の人たちは、この石を「天狗の涙石」と呼びます。久万町誌には、「天狗の涙石」の由来が、次のように記されています。

昔、この田は、庄屋の田でありました。村中の娘たちを集めて田植えをしている真最中に、うら山から一羽の天狗が飛んで来て、田植え歌を歌い始めました。

こうなつては、こちらも負けてはいられません。庄屋の命令で娘たちも一生けん命黄色い声をはりあげて歌いましたので、とうとう天狗の方が負けてしまいました。

天狗は、くやし涙をぼてぼてと落として、山へにげて帰りました。

その涙が石となつて残つたのが「天狗の涙石」です。それからというもの、ここでの田植えは、天狗の涙雨でいつも大雨になるそうです。



天狗の涙石↑

※ 烏帽子…奈良時代から江戸時代にかけて、男子が着用した、先が細くなつたかぶり物。

※ 庄屋…昔、村を取りしきつていた人。今の村長に当たる。

### B 「力石」

山すそをぬうように走る県道久万中山線を進むと、のどかな田園風景が広がります。その水田の中に、「力石」と呼ばれる二つの石が突き立っています。大きい石は高さ一・五メートル、もう一つは一メートルほど。二名地区のシンボルとして、古くから葛城神社前の田にあります。地元では、次のように言い伝えられています。

二名村の村人がお宮に集まり、力自まん二人に、力比べをさせようと考えました。

長さ約一・八メートルの青石を持ち上げて地中に立て、より深く入った方を勝ちとしました。

一人は「腹が減つては力が出ないから、飯を食うまで待つてくれ。」と言い、弁当を食べ始めました。もう一人は、力に自信があるので、何も食べませんでした。

二人が青石を同時に地面につきさすと、弁当を食べた力持ちの石がより深く立ち、村一番の力持ちになりました。

この話がもとで、二名地区では、「大力より食い力」と言われています。



力石↑

## C 「喜与さん」

「喜与町」は、松山城下にあるロープウェイ街のすぐ東に位置しています。一丁目にある交差点のほぼ中央には、町の名の由来を刻んだ石碑がたっています。

石碑のタイトルは、「喜与女之碑」。ここに記されているのは、次のような話です。

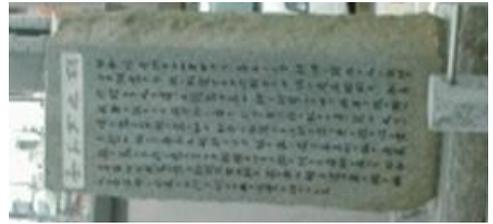
今から二百年以上も昔、松山のお城の下に、喜与という人が暮らしていました。

「喜与さんは、いつも親切にしてくれる。ありがたいことだ。」

「喜与さんにとっては、貧しい人も金持ちの人も関係ない。分けぐだてのない人じゃ。」

町の人たちは口々にこう言い、喜与のことをたよりにしていました。

ある年のことです。松山の城下で、えき病がはりました。えき病とは、悪い伝染病のことです。人々は、次々とえき病にたおれていきました。自分にえき病がうつることをおそれて、だれも病人に近づくことができません。そんな中、喜与は、だれかれと区別することなく、ねるのも、食事するのもわすれて、かん病をしました。そして、「自分の命と引きかえに、病気に苦しむ人を助けてください。」と神様にいのりました。



喜与女之碑↑

喜与の願いが通じたのでしょうか。えき病の大流行はおさまりました。しかし、えき病は、代わりに喜与の命をうばっていきました。

「わしらは、喜与さんのおかげで助かったのに、喜与さんが気の毒じゃ。」

人々は、喜与の死を悲しみました。それからしばらくして、このあたりは、「喜与町」と呼ばれるようになりました。

昔話や説話を讀んだあと、小波さんたちのグループは、次のように話し合いました。

### 【話し合い】

**小波** A「天狗の涙石」とB「力石」、C「喜与さん」の三つの話を讀んで、どんなことを感じたり考えたりしましたか。

**白山** A「天狗の涙石」とB「力石」は、よく似ていると思います。理由は、どちらも本当にあった話とは思えないからです。一方、C「喜与さん」の話は、おそらく本当の話だと思います。

**岩口** Aの話は、天狗という想像上の生き物が出てくるので、作り話の感じが強くなるのではないかと思います。でも、昔話には、鬼や竜などの想像上の生き物がよく登場します。

**小波** それは、現代でも同じですね。小説も、映画も、想像でえがかれているものが多くあって、現実ばなれしているところがおもしろいと言えます。

(次のページに続く。)

**大木** ぼくの父は、久万高原町の出身です。A「天狗の涙石」の話は、父から聞いたことがあります。涙石がある田では、不思議と毎年のように大雨が降るそうです。

**小波** たまたまこの田に変わった形の石があったことと、田植えのたびに雨が降ることを組み合わせて、だれかが「天狗の涙石」の話を作ったのではないのでしょうか。

**岩口** B「力石」の話も、二つの石が並んでいるのを見て、昔の人が思いついた話かもしれません。ただ、大きな石を使って、力比べをするという話は、①あながちうそではないような気がします。

**大木** 久万高原町では、どの地域にも、言い伝えが残っているそうです。②昔は、発想が豊かな人が大勢いたと考えると、楽しい気分になるし、人々に大事なことを分かりやすく教えようとして、たとえ話を作った人もいたと思います。

**岩口** そうですね。「大力より食い力」の言葉は、「準備の大切さを忘れてはいけないよ。」という教訓とも取れます。

**白山** わたしは、喜与さんの話に触れて、先月読んだ「マザー・テレサ」の本を思い出しました。現在のマケドニアに生まれたテレサは、インドに移り住み、うえた人や病氣の人、だれからも世話をされたい人たちを助け、ノーベル平和賞を受賞しました。

**小波** 生まれた国や生きた時代はちがいますが、喜与とテレサは、人々のために生きたという点が同じです。名前が町名として残ったり、世界的な賞をもらったりしたのは、一人がだれからも認められる人物だったことの表れだと思います。

**白山** 本には、「テレサは、亡くなるまで、人々のためだけにつくした。」という言葉がのっていました。わたしたちの住む町に、マザー・テレサのような人がいたことをほこりに思います。

一 【話し合い】の——線部①「あながち」と似た意味をもつ言葉として最もふさわしいものを、次のアからエまでのの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

ア このうえなく    イ 同じく    ウ まだしも    エ 必ずしも

二 【話し合い】の——線部②の文を次の(1)、(2)の二文に分けて書くとき、(      )に当てはまる言葉として最もふさわしいものを、あとのアからエまでのの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

(1) 昔は、発想が豊かな人が大勢いたと考えると、楽しい気分になります。

(2) (      )、人々に大事なことを分かりやすく教えようとして、たとえ話を作った人もいたと思います。

ア そのくせ    イ その中には    ウ その間    エ その一つとして

三 小波さんたちは、A、B、Cそれぞれの話のポップ（広告カード）を作りました。次の条件に合わせて、B、Cの話のしょうかい文を書きましょう。

#### 〈条件〉

○ いずれも、十五字以上、二十五字以内で書くこと。

○ 次のしょうかい文を参考にすること。

A：この田植えはいつも雨。雨を呼ぶ石「涙石」とは…。



シート 27 正答例

一 エ

二 イ

三 B (例) 二つの石で力比べ。勝敗を分けたカギとは…? (21字)

C (例) 松山のマザー・テリサ、えき病から町を守った書手。(24字)